地域の自立を考える ～スコットランド独立運動から～

北海道新聞　志子田徹

∞はじめに 「いま、日本の地方自治は」

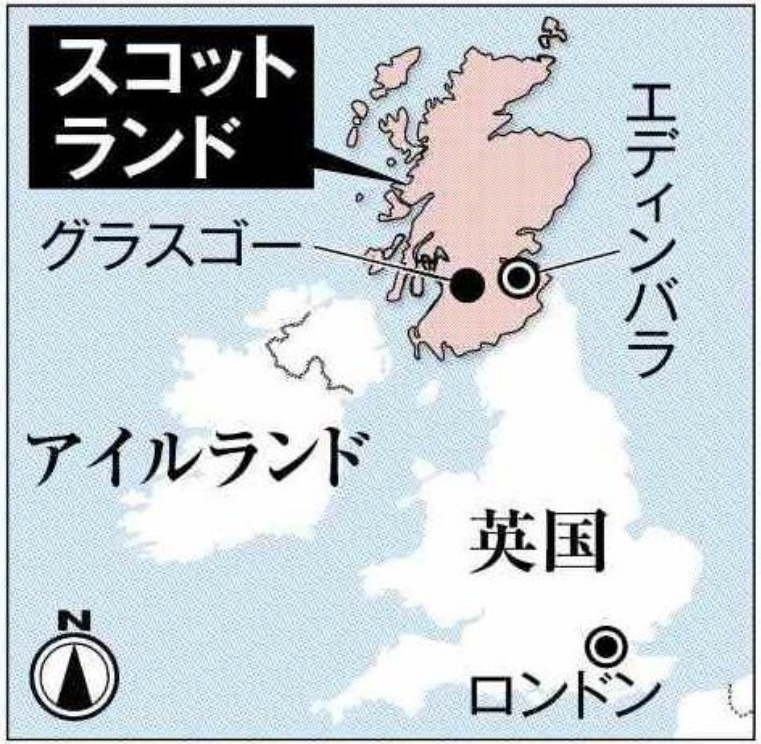
- 「分権改革」
  分権一括法、改革派首長
- 「地方リストラ時代」
  小泉・竹中＝新自由主義
  平成の合併、三位一体の改革

- 民主党政権＝地域主権？
  出先廃止△　一括交付金△
- 安倍政権
  地方消滅・地方創生？
  沖縄に対する差別と圧政

→自主性と自立を否定する流れ

＜1＞スコットランドとは

- グレートブリテン島の北部
- 冷涼は気候
- 「お雇い外国人」
- 70年代までは炭鉱、重工業
- 現在は石油、ウィスキー、1次産業



北海道とスコットランドの比較

	北海道	スコットランド
人　口	540万人 （日本全体の4%）	530万人 （英全体の8%）
面　積	8万3千平方キロメートル （同22%）	7万9千平方キロメートル （同32%）
GDP	18兆3千億円	25兆1千億円

＜2ー①＞独立運動の源流　政党の誕生

- 1707年　イングランドに併合、議会は解散

（20世紀前半　アイルランド独立、WWⅠ）

- 1920年代　自立を求めるグループが相次ぎ誕生

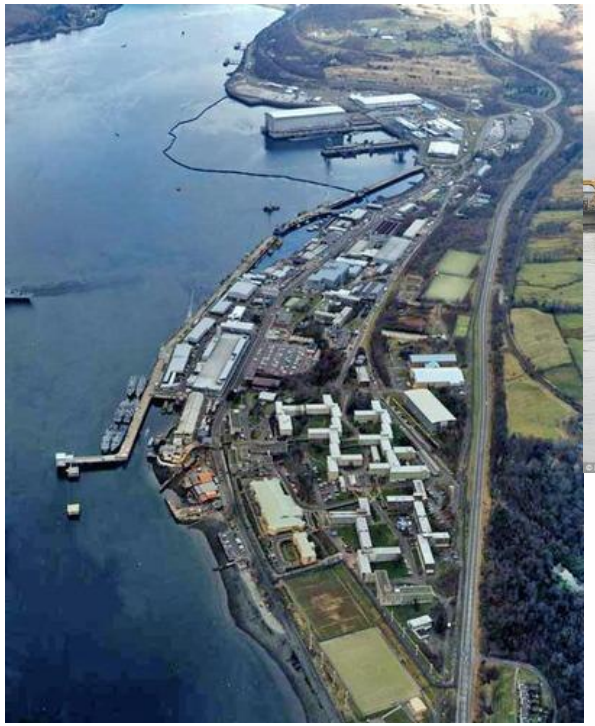
National　Party　of　Scotland（独立派）、Scottish　Party（分権派）

⬇

- 1934年　SNP（Scottish　National　Party）設立
- 1967年　SNPが初の国会議席（下院補選）
- 1974年　下院選で11議席獲得、第3党に

＜2ー②＞源流　反核･反基地闘争

英国の核兵器を搭載する唯一の原子力潜水艦母港クライド海軍基地



60年代以降、原潜配備に反対闘争

＜2―③＞源流　70年代の議会開設運動

- 労働党ウィルソン政権　73年議会開設を容認
- 北海油田の開発→　**“It‘s Scotland’s oil”** bySNP

79年3月　議会開設を問う住民投票

賛成	反対
51.6%	48.4%

絶対得票率40%に届かず否決→運動低迷へ

＜2―④＞源流　80、90年代の議会開設運動

80年代「サッチャー改革」＝新自由主義
　炭鉱閉山、造船廃業、人頭税の前倒し

国政は保守党政権、スコットランドは野党の牙城
「民主主義の赤字」解消を

再び自立・分権要求の高まり

89年　「スコットランド憲政会議」が発足
　　政党、労組、教会、市民団体
　　議会開設を再び要求

＜3ー①＞議会開設から独立運動へ

97年5月　労働党に政権交代

マニフェストに「分権改革」

9月　議会開設を問う住民投票

賛成	反対
74.3%	25.7%

99年　スコットランド議会が誕生

外交、安保、財政・金融を除く広範な立法権

＜3ー②＞独立運動へ　SNP政権の誕生

◆1999～2007年　労働党と自民党の連立

- 禁煙法、キツネ狩り禁止→全英に波及

◆2007年　SNPが第1党（少数与党）

・サーモンド党首の指導力

・「EUの中の独立」路線

・多民族、居住者主義

・中道左派

＜3ー③＞独立運動へ　SNP政権

少数与党でも堅実な政権運営
社民主義路線の定着
労働党の低迷

◆2010年　保守党が政権奪取
「民主主義の赤字」加速
緊縮財政、福祉削減の路線

	1999	2003	2007	2011	2016
SNP	35	27	47	69	63
労働党	56	50	46	37	24
保守党	18	18	17	15	31
自民党	17	17	16	5	5
その他	3	17	3	3	6
合計	129	129	129	129	129

「独立問う住民投票を」

＜3ー④＞独立運動へ　住民投票の実現

２０１１年　スコットランド議会選でSNP勝利（＋２２）、初の単独政権
労働党（ー９）、自民党（ー１１）の敗北

１２年　SNP政権、英政府と住民投票の実施で合意

当時の<u>世論調査：独立「賛成」3割vs「反対」5割</u>

＜4－①＞独立どう考える

◆スコットランドの30人に聞く独立の是非

賛成	ソフィ・サマービル(16)学生	女	E	地域のことは地域で決めたい
	レベッカ・ライト(18)学生	女	E	中央政府は地方に関心ない
	ハービー・マクニール(20)飲食店員	男	E	核兵器を廃絶できる
	クリス・パートナー(22)店員	男	E	未来を自分たちでつくれる
	リーザ・ギア(25)パート	女	E	子育てに力を入れてくれる
	ラビーニャ・ラッカネロ(29)画家	女	G	核兵器のない社会ができる
	キャサリン・サザランド(33)会社員	女	G	身近な政府の方が声を聞く
	ジェニファ・マコガン(36)医療機関	女	G	公平な社会を実現できる
	デレク・マクレーン(36)ＩＴ会社員	男	G	平等で平和な社会が実現可能
	サンディ・マーティン(42)医師	女	G	貧困の解決が期待できる
	パメラ・ロス(43)教員	女	G	中央の政治が信用できない
	スザンヌ・マグロッホン(45)自営業	女	G	既成政党にうんざりした
	レイモン・マーシャル(47)福祉職員	女	G	中央政府は緊縮策ばかり
	マイケル・カム(52)自営業	男	G	独立した方が豊かになれる
未定	クレア・リッチー(25)学生	女	E	未来が良くなる方を選びたい
	デビィ・ユアーツ(29)パート	女	E	どっちが生活を良くするか
反対	アンガス・ウィリアムス(19)調理師	男	E	今のままで安定した社会
	チャーリー・バネット(21)店員	男	E	経済が悪くなる
	デビット・ブルックス(22)大学生	男	G	企業が流出する
	クリス・ブラウン(25)自営業	男	E	景気は良くならない
	エドリ・ウォルドリッチ(27)弁護士	男	G	国際社会で地位が下がる
	イザベル・カヨン(28)会社員	女	E	経済が悪くならないか心配
	ソフィア・ブルース(40)自営業	女	E	小さくなって弱い国になる
	ヒュー・パロウ(52)会社経営	男	E	一つの国を割る理由がない
	スタン・スミス(52)組合員	男	G	分離しない方が経済は強い
	フレドリック・シンクレア(61)店員	男	G	不安なことばかり
	アネット・モレス(62)年金生活	女	E	社会保障が維持できるのか
	エディ・マグワイア(65)音楽家	男	E	結束していた方が強い国だ
	パットナム・マクリア(74)無職	男	E	うまくいくわけがない
	ジョニー・ケイン(77)団体職員	男	E	これ以上小さい英国は嫌だ

※敬称略、Ｅはエディンバラ、Ｇはグラスゴー

＜4ー②＞独立どう考える　賛成派

「遠いロンドンの政府が地方のことを決める仕組みは民主主義と言えません」。ウェストスコットランド大　ケイティ・ブラウンさん20歳

「政府は大企業ばかり優遇して地方の中小零細には見向きもしない」。機械製造会社経営のデビッド・ラファーティさん64歳

ref.) 独立賛成派の多民族性

＜4―③＞独立どう考える　反対派

「英国が割れて小さくなったら
弱い国になってしまう」。エ
ディンバラの自営業ソフィア・
ブルースさん40歳

「社会保障はどうなるのか。
経済がうまく行くわけがない」。
エディンバラの無職ジョニー・
ケインさん65歳

結果は･･･

投票率　84.6%

＜20世紀型の独立＞
①ナショナリズム＝排他的な民族意識
②圧政からの解放、ときに暴力的な戦い

＜スコットランド型の独立＞
①居住者主義＝包括的な多民族意識
②民主的な手続き、言葉による闘い

＜5ー①＞独立運動は終わらない

	2015総選挙	2016スコットランド議会選
SNP	56（＋50）	63（ー6）
労働党	1（ー40）	24（ー13）

◆16年6月　EU離脱を問う国民投票

英国全体　　「離脱」52％　「残留」48％

スコットランド　「離脱」38％　「残留」62％

＜5ー②＞独立運動は終わらない

「スコットランドの有権者にとっての選択肢は今や、『ハードブレグジット』か、独立かだ」（2017年3月13日、ニコラ・スタージョン自治政府首相）

＜結＞地域の自立に必要なこと

・したたかなリーダー、受け皿となる政党

・粘り強い住民運動

・言葉の力

「私たちは必ず物事を変えられます。奴隷制度廃止も女性参政権も、誰も信じてなかったのに実現できたでしょう。今は実現の可能性が見えなくても、変化の可能性を信じて粘り強く続ければ、きっと実現できるのです。いつ変化の好機が来ても生かせるよう、十分に準備してください」（イゾベル・リンゼイ）

――ご静聴ありがとうございました　shikoda@hokkaido-np.co.jp